

「分析化学」特集「大気環境と分析化学」の論文募集

「分析化学」編集委員会

高度経済成長期の産業活動により顕在化した大気環境汚染に対して、この半世紀で様々な対策が実施されてきました。これらの取り組みにより、二酸化硫黄、二酸化窒素、浮遊粒子状物質 (SPM) など改善された項目がある一方で、広域越境汚染がその一因として示唆される微小粒子状物質 (PM_{2.5}) や、光化学オキシダントなどの項目では環境基準の達成率が低く、依然として注目を集めています。

例えば光化学オキシダントの主要成分であるオゾンの生成に関わる揮発性有機化合物 (VOC) は、化合物ごとにオゾンの生成能が異なることから、個別分析して評価するための分析・解析手法の必要性が高まっています。また、発生源から直接排出される汚染物質や二次的に生成される有機エアロゾルは、気候や健康への影響が注目されており、影響評価には化学分析による定量的な理解が必要とされます。

このように、国内外の状況変化に伴う新たな大気環境汚染に関わる分析手法、より広域な環境モニタリングに適した分析手法、得られた環境データの解析手法など、分析化学が求められる役割は大きいと考えられます。

以上のような背景から、「分析化学」編集委員会では、「大気環境と分析化学」と題した特集を企画しました。本特集では、大気環境汚染物質に関する最新の計測技術や分析法の開発、環境動態の把握に適した計測・分析・解析手法の開発などを対象とします。また、発生源対策や生態系に対する影響、放射性物質などに関連する幅広い分析技術についての論文投稿をお待ちしております。奮ってご投稿ください。

記

1. 特集論文の題目：「大気環境と分析化学」

2. 特集論文の対象：以下の例のような「大気環境と分析化学」に関する論文。

- 1) 大気環境汚染物質に関する最新の計測技術や分析法の開発、
- 2) 環境動態 (室内環境、都市・地域汚染、越境汚染、地球環境など) の把握に適した分析・解析手法の開発、
- 3) 発生源に関連する分析・調査手法の開発、
- 4) 生態影響に関する分析・調査手法の開発、
- 5) 放射性物質に関する分析・調査手法の開発、
- 6) これらに関わる調査・解析結果の報告など。

3. 論文の種類：総合論文、報文、技術論文、ノート、アナリティカルレポート。

4. 特集論文の投稿規定及び投稿の手引き：一般論文に準拠 (「ぶんせき」2017, No.3, 又は URL = <http://www.jsac.jp/sites/default/files/bunka/toko-j.pdf> 参照)。

5. 特集論文の審査方法：一般論文に準拠。

6. 特集論文の申込方法：投稿カード (Excel ファイル) に所定の事項を記入 (論文種目欄と特集名「大気環境と分析化学」を選択) し、「分析化学」編集委員会あてにお申し込みください。投稿カードのうち、題名、著者は暫定のもの、原稿予定枚数などの未定部分の記載は不要です。投稿も電子メールにてお願いします。テンプレートによる投稿要領 (<http://www.jsac.jp/node/51>) を参照してお送りください。

7. 特集論文申込締切：2017年10月6日 (金)

8. 特集論文原稿締切：2017年12月1日 (金)

9. 特集論文の掲載：期限内に審査を通過した論文は特集論文として「分析化学」第67巻第6号に掲載の予定です。ただし、期限を超えた論文については、一般論文として他の号に掲載する場合があります。

10. 特集論文に関する問い合わせ先：〒141-0031 東京都品川区西五反田1-26-2 五反田サンハイツ304号 (公社) 日本分析化学会「分析化学」編集委員会 [電話：03-3490-3537, E-mail : bunkatoukou@jsac.or.jp, URL = <http://www.jsac.jp/bunka>]